

★イクボス10ヶ条

「イクボス」とは、職場で共に働く部下・スタッフのワークライフバランス(仕事と家庭の両立)を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果をだしつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司(経営者・管理職)のこと(対象は男性管理職に限らず、女性管理職も)のこと

【イクボス10ヶ条】

①理解

部下が子育て・介護・地域活動などのライフに時間を割くことへ理解を示していること

②多様性

ライフに時間を割いている部下を差別せず、ダイバーシティな経営をしていること

③知識

ライフのための社内制度(育休制度など)や法律(労基法など)を知っていること

④組織浸透

管轄している組織全体に、ライフを軽視せず積極的に時間を割くことを推奨し広めていること

⑤配慮

転勤や単身赴任など、部下のライフに大きく影響を及ぼす人事については、最大限の配慮をしている事

⑥業務

育休取得者が出ても業務が滞らないよう、情報共有チームワーク醸成などの手段を講じていること

⑦時間捻出

部下がライフの時間を取りやすいよう、会議や書類の削減、意思決定の迅速化などを進めていること

⑧経営目線

ボスの上司や人事部に対し、社員のライフを重視した経営をするよう、提言していること

⑨自らWLB

ボス自ら、仕事×私生活×社会貢献というWLBを重視し、楽しんでのこと

⑩業績達成

組織の長として、職責を全うし、業績やコミットメントを果たしていること

★ジョカツ「女性活躍検討部」の提言

女性活躍のための対策を考える 20～30代の厚生労働省の若手職員でつくる「ジョカツ(女活)」が働き方改革に関する提言をまとめ、厚生労働大臣に提出した。提言は、若者や子育て中の女性約1,400人の話を聞いてまとめたもの。提言の内容は、

- ①企業に従業員の残業時間の状況を公表するよう義務付ける新法の制定
- ②男性の育児参加を進めるための「パパ大好き休暇」の創設
- ③企業に休暇を取れるよう、従業員が休暇をとったかどうか把握する義務
- ④残業が多く、厚労省が「強制労働省」と呼ばれる「厚生労働省の改革」

※本丸の厚生労働省からの提言とは楽しみです！！

★雇用 4年で250万人増

雇用者数が2016年11月時点で5733万人となり、直近4年で250万人増えた。特に女性が目立ち、出産や子育てのためにいったん仕事を離れる「M字カーブ」は解消されつつある。男女共に60代以上の労働参加も高まった。

人口は減り始めており、働く意欲のある女性や高齢者を支える環境整備が課題になる。

※Mカーブとは、20代30代を中心とした出産や子育て期の女性が労働市場からいったん退出すること。育児が落ち着くと再就職する女性が多く、働く女性の比率を見ると「M」の形を描くことからM字カーブと呼ばれる。



冬牡丹(ふゆぼたん)